

ホクコーオンリーワン®フロアブル

■種類名：テブコナゾール水和剤
 ■有効成分：テブコナゾール-----20.0%
 ■PRTR法指定物質：テブコナゾール [第1種] -----20.0%

■登録番号：第21320号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：2004.08.04
 ■性状：類白色水和性粘稠懸濁液体
 ■有効年限：3年
 ■包装：250ml×40本

【特長】

- 従来のDMI剤と比較して広いスペクトラムの活性をもつ。
- 茶の炭疽病・もち病・褐色円星病をはじめ、果樹・野菜の各種病害に効果を発揮する。
- 処理葉全体に均等に分散する傾向が強く安定した効果を発揮する。

【適用内容】(2015年6月10日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フロアブルを含む農薬の総使用回数			
りんご	黒星病	2000~4000	200~700 ㍓ /10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内			
	モニリア病、斑点落葉病 黒点病、うどんこ病、褐斑病 赤星病、灰色かび病	2000								
なし	輪紋病、黒斑病、うどんこ病 赤星病、黒星病	2000~4000		収穫前日まで				3回以内	散布	3回以内
	ぶどう	晩腐病、黒とう病、さび病 灰色かび病、うどんこ病 すす点病、褐斑病								
おうとう	灰星病、炭疽病 黒斑病、褐色せん孔病	2000		収穫前日まで				3回以内	散布	3回以内
もも ネクタリン	灰星病、桿状腐敗病 黒星病、うどんこ病、炭疽病									
小粒核果類 (うめを除く)	灰星病、黒星病	2000~3000		2000				収穫前日まで	散布	3回以内
うめ	灰星病、黒星病、すす斑病									
かき	炭疽病、うどんこ病、落葉病 灰色かび病	2000~3000		150~300 ㍓ /10a				収穫14日前まで	散布	3回以内
	ホップ	うどんこ病								
ねぎ わけぎ あさつき	さび病、黒斑病	1000~2000	100~300 ㍓ /10a	収穫前日まで	散布	2回以内				
たまねぎ	灰色腐敗病、灰色かび病									
にら	さび病	1000~2000	100~300 ㍓ /10a	収穫前日まで	散布	2回以内				
にら(花茎) 未成熟 そらまめ		4000								
しょうが	白星病	2000	200~400 ㍓ /10a	摘採7日前まで	2回以内	2回以内				
キャベツ	菌核病									
茶	炭疽病、もち病、褐色円星病 新梢枯死症、網もち病	2000~3000	200~400 ㍓ /10a	摘採7日前まで	2回以内	2回以内				
しそ	さび病	4000	150~300 ㍓ /10a	収穫21日前まで	3回以内	3回以内				
にんにく	さび病、葉枯病、白斑葉枯病 黄斑病	1000	100~300 ㍓ /10a	収穫7日前まで	3回以内	3回以内				
りんどう	葉枯病、花腐菌核病	2000	200~300 ㍓ /10a	発病初期	5回以内	5回以内				
ゆり	乾腐病	50	-	植付前又は 貯蔵前	1回	1分間 球根浸漬	1回			
チューリップ	球根腐敗病			植付前		15分間 球根浸漬				
いちじく	株枯病	2000	5~10 ㍓ /樹	生育期 但し、 収穫前日まで	3回以内	灌注	3回以内			

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 本剤は貯蔵中に分離することがあるので、使用に際しては容器をよく振ること。
- りんごのモニリア病に対して使用する場合、葉腐れの初期病斑発現直後に散布して、実腐れの発生を予防する目的で使用すること。
- 本剤は茶の新梢枯死症に対して、その他の病害との同時防除に使用できるが、多発が予想される場合には効果が劣る場合があるので注意すること。
- はくさい、だいこんに対して薬害を生じる恐れがあるので、付近にある場合はかからないよう注意すること。
- 使用液量は対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせ調節すること。
- いちじくに使用する場合、生育抑制などの薬害の恐れがあるので、ポット栽培などの根域が抑制される栽培条件や、移植一年目の幼木での使用は避けること。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。特に適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などのないように注意すること。誤って飲み込んだ場合は吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 保管：直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管すること。